

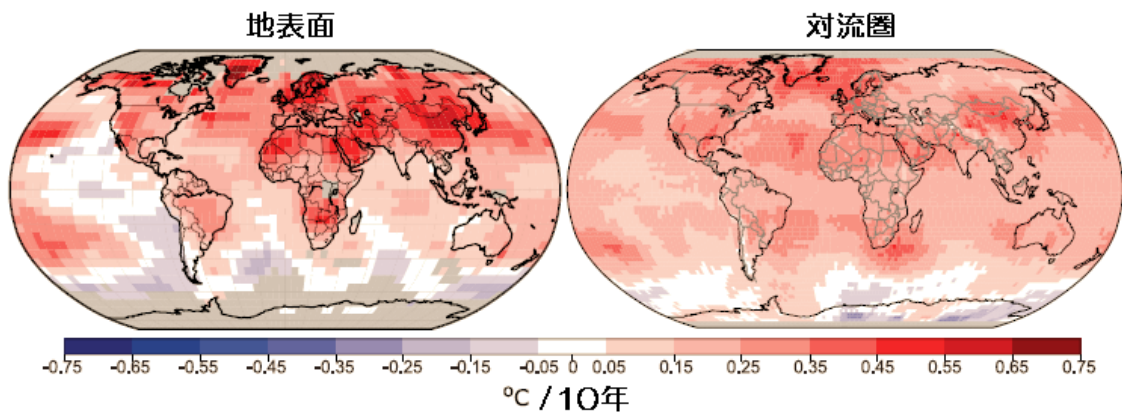
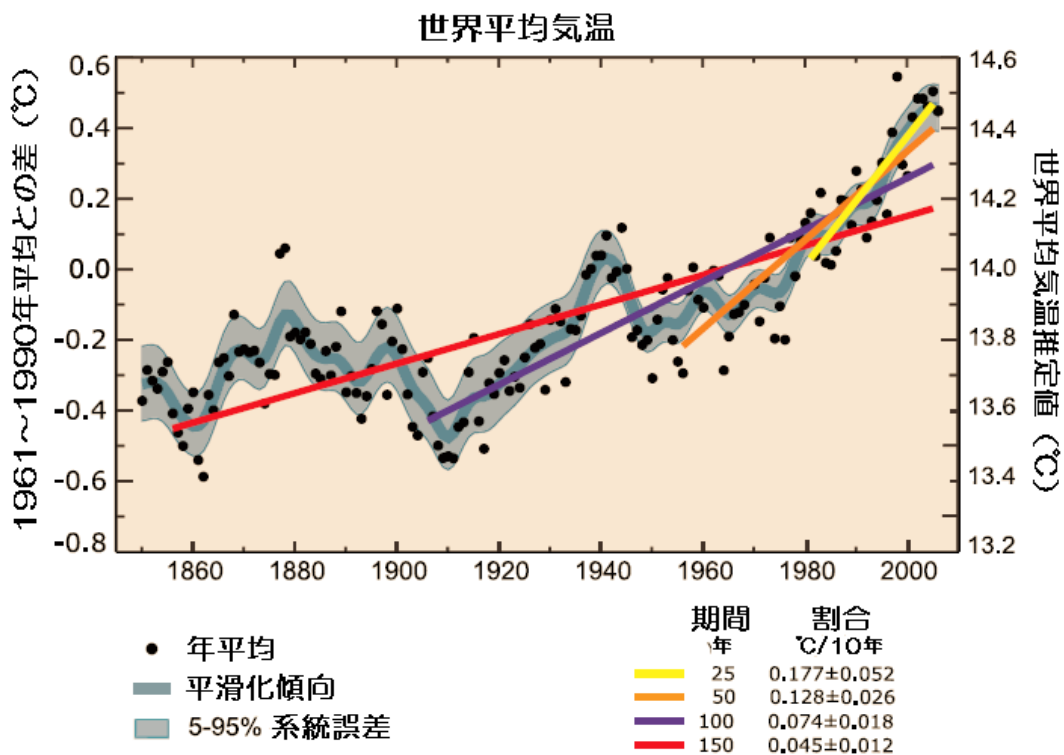
# 環境教育のすすめ

連載 No.1 2009.3.1

環境教育部会

## 今なぜ環境教育か

今世界を騒がせている大きな問題の一つが地球の温暖化という問題です。IPCC（気候変動に関する政府間パネル）は第4次報告書の中で、地球の平均気温は、1906年から2005年までの100年間で0.74 上昇していると分析しています。



(IPCC 第4次報告書より)

100年間で1度近いという大変な速度での上昇です。なかには地球上の生物は過去何度も10 くらいの温度変化は経験しているから、これくらいの変化ではびくともしないという意見もありますが、生物にとっては大変なことです。過去の10 の温度変化というのは氷河期から間氷期への温度上昇でこれは、1万年とか2万年という長い時間をかけての変化です。100年で1 度とか、ましてやIPCCが予測している最悪のケース2100年までに6.4 の上昇などというスピードを経験したことは全くないのです。

この急激な気温変化について行けず、多くの生物が絶滅していくことが懸念されています。現在でも多くの生物が絶滅の危機にさらされ、また絶滅していています。6500万年前の恐竜の大絶滅以来の、それ以上の大絶滅の時期を迎えているのが今です。

いまこの地球の上で生きている私たち人類、そしてあらゆる生き物は、いま、生存の危機に直面しています。危機をもたらしているのは温暖化の問題だけではありません。オゾン層の破壊、環境ホルモン、森林破壊、砂漠化、・・・とたくさん問題があります。

危機をもたらしているもう一つの原因は、核兵器という大量殺戮兵器が存在し、人類が紛争の解決の手段としてまだ戦争という方法を放棄することができないことです。米ソの核開発競争の結果、1980年代には、すべての人たちを2回殺し尽くしてもまだ余るとほどの核兵器を保持しているという、いわゆる「オーバーキル」という状態を作り出してしまいました。1991年12月のソビエト連邦の崩壊以後、核爆弾の数は次第に減少してはいますが、オーバーキルという状態からは解放されず、いまだに核兵器による恐怖にさらされています。

過去地球上では何度も生物の大絶滅という事件が起きてきました。幸いにも過去においては大絶滅のあとに大発生が起き、生物は進化してきました。今の大絶滅は人間が作った原因によって生物が死んでいくという事態で、果たしてこのあと大発生があるのか、危惧されるどころです。

今生きている私たちが生きる権利があるのと同じように、将来地球上に生まれてくるであろう人たちにも当然、今生きている人と同等、あるいはそれ以上に健康で文化的な生活を営んでいく権利が保証されるべきだろうと思います。そのために、平和な地球、健全な自然環境が保たれなければなりません。地球で生きていく人たちがみんなで、力を合わせて永続的に生きていくためには何が必要か、永続可能な社会を築き上げるためには何が必要か。平和と環境と生きる権利、この三つについて知り、理解し、実践することが求められます。そのための平和教育であり、人権教育であり環境教育なのです。